



ニュースレター

SDM NEWS



「新エネルギー活用&持続可能社会研究プログラム2013」第5回ワークショップ：セナイ・ハイテクパークCEOシュクリ氏の講演

2013年

3

月号

行事予定

2013年4月17日(水) 18:30 ~ 20:30

SDM研究科講演会および研究科
説明会「協創とイノベーションの未来」

講師：SDM研究科委員長・教授 前野 隆司
@三田キャンパス東館6階 G-SECラボ
<http://www.sdm.keio.ac.jp/2013/04/17-162622.html>

要事前登録 無料

2013年5月13日(土) 13:00 ~ (予定)

研究科説明会

@日吉キャンパス協生館

2013年9月8日(日) ~ 9月11日(水)

Asia-Pacific Council on Systems
Engineering Conference
(APCOSEC 2013)

@日吉キャンパス協生館
<http://www.apcosec2013.org/>

要事前登録 有料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201303/201303_index.html

通算52号 2013年3月発行

SDM
System Design and Management

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>

専任教員からのメッセージ

慶應SDMからKeioSDMへ



東日本大震災から2年が経ちました。日本の課題のひとつはその震災からの復興であり、SDM研究科の学生や修了生、教職員も様々な形でその大規模・複雑な課題に取り組んでいます。一方、東日本大震災の後にも世界各地で様々な自然災害が起きています。地震や津波、大雨、洪水、山火事などは地球が生きている証しでもあり、我々が地球上に住んでいる以上、避けることはできません。自然災害は国境を超えます。自然災害をはじめとする様々な課題に対峙する我々も国境を越える必要があります。そのために、我々がすべきことのひとつは様々な国との人と人との繋がりを更に増やし、相互理解を深めていくことではないかと思います。実際、SDM研究科が進めている幾つかの国際プロジェクトでは、日本や慶應義塾、SDM研究科と深い交流がある方が海外の連携機関のキーパーソンであることが少なくありません。SDM研究科の学生や教職員ひとりひとりが、日本を代表する心意気で様々な国や地域との交流を始め、相互理解を深め、それを継続する架け橋になれば、持続的かつグローバルなネットワークが形成され、様々な大規模・複雑な課題に効果的に取り組めるのではないかと思います。4月に創立5周年を迎えるSDM研究科は、ケンブリッジ大学、マサチューセッツ工科大学、アデレード大学との交換留学生プログラムを新たに開始致します。システムズ・アプローチをベースに問題解決と社会貢献を果たすための研究と教育を行うSDM研究科のパートナーが更に世界に拡がり、SDM研究科から国際的なリーダーを数多く輩出できるよう様々な挑戦を行って参ります。

SDM研究科准教授 神武直彦

最新のニュース

TOPIC

1 『ダイアログとデザインの未来Vol.8 ～経済の未来～』を開催

SDM研究所とグローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」では、『ダイアログとデザインの未来』をテーマとした公開講座フューチャーセッションを2012年6月から開催してきた。

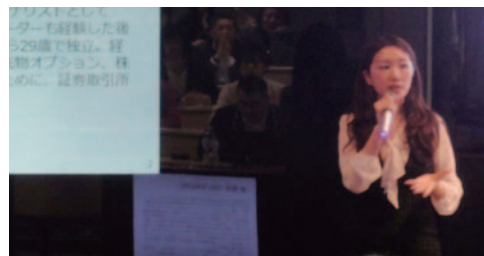
8回目となる2013年2月6日(水)には、「経済の未来」をテーマに、カリスマファンドマネジャーとして知られているレオス・キャピタルワークス取締役・最高投資責任者(CIO) 藤野英人氏とメディアを通じて経済をわかりやすく伝えるGood

News and Companies代表の崔真淑氏を講師として招き、セッションを行った。藤野氏からは、株価の変動をもとに日本企業の潜在力が語られ、崔氏からは、経済を身近にするプロジェクトの紹介が行われた。

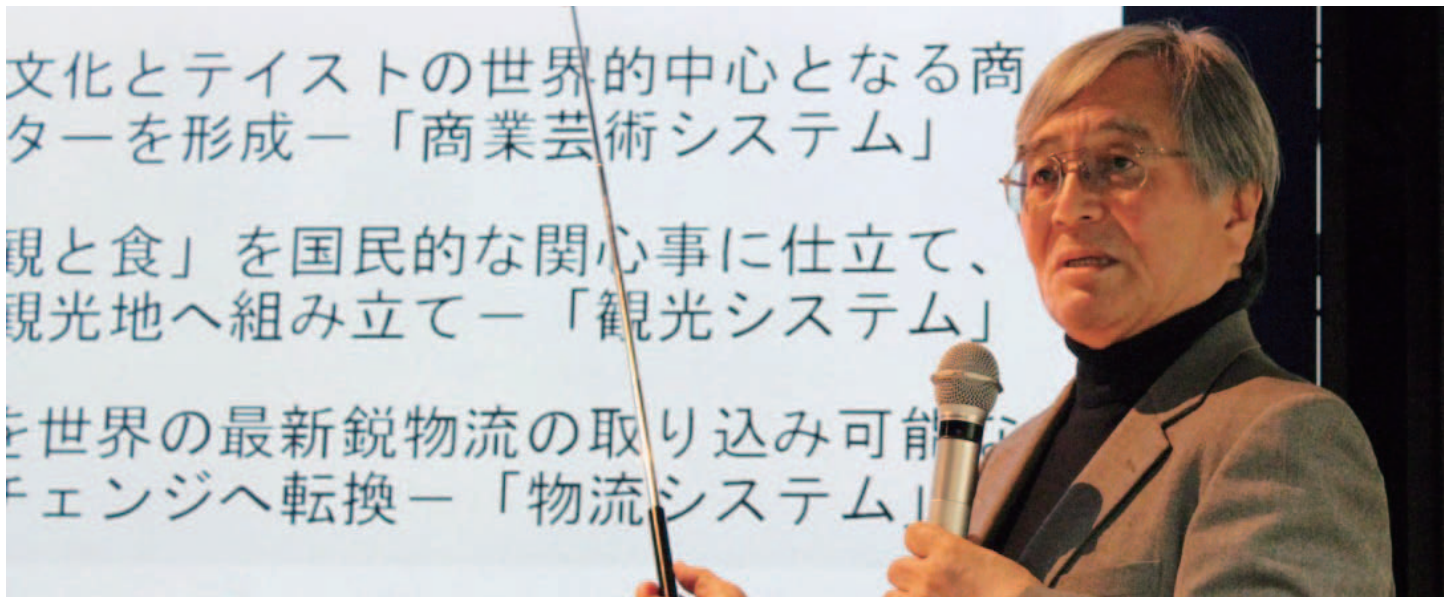
60名を超える参加者からは、質問や提案が相次ぎ、大盛況のセッションとなった。また参加者の満足度も高く、「経済が身近になった」「お金に関する価値観が変わった」とのコメントが多数寄せられた。



レオス・キャピタルワークス藤野氏のプレゼンテーション



Good News and Companies崔氏のプレゼンテーション



具体的事例で説明する横山氏

SDM研究科ならびにグローバルCOEプログラムでは2013年2月26日(火) 19時～21時に公開講座「社会システムをデザインする」を開催した。

講師には元マッキンゼー日本支社長で社会システムデザイナーの横山禎徳氏をお招きして、複雑で多様な社会システムをデザインするための考え方と手法についてお話しいただいた。今、日本に必要なのはプロダクトイノベーションでもコンセプトイノベーションでもなく、システムイノベーションであるとの説明に多く

の参加者が同意している姿が印象的であった。論理的思考プロセスと創造的思考プロセスを交互に用いる身体知としてのデザインプロセスは、SDM研究科で教育研究している方法論との共通点も非常に多く、システムズエンジニアリングをベースとしたシステムデザインの更なる広がりを感じさせるものとなった。

講演後の質疑応答も大変盛り上がり、多くの参加者から「SDM研究科の取り組みが如何に重要か、良く理解する事が出来た」とのコメントをいただいた。



真剣に聞き入る参加者



テストに臨む学生たち

SDM在 学生 を 対 象 と し た TOEFL-ITP (Test of English as a Foreign Language-Institutional Test Program) を 2013 年 2 月 23 日 に 日 吉 キャンパスで開催した。

TOEFL は 海 外 大 学 ・ 大 学 院 留 学 に 留 学 を 希 望 す る 者 が 受 験 す る 英 語 能 力 測 定 試 験 で あ り、ITP は そ の TOEFL 本 試 験 の 過 去 問 を 再 利 用 し て 作 成 さ れ た 団 体 受 験 向 け の 試 験 プ ロ グ ラ ム で あ る。出題形式や採点方法はTOEFL本試

験に準じており、TOEFL本試験のスコアと高い相関関係にあるため、日本国内のみならず、海外の高等教育機関でも幅広く利用されている(国際教育交換協議会日本代表部)。試験内容は、Listening Comprehensionが50問(35分)、Structure and Written Expressionが40問(25分)、Reading Comprehensionが50問(55分)の計140問(115分)という長時間にわたるもので、修了を間近に控えたSDM

研究科の学生が真剣な表情で試験に挑んだ。

SDM研究科では2010年度よりTOEFL-ITP試験を導入し、入学直後と修了直前に実施することで、英語能力を定期的かつ定量的に測定する仕組みが整えられている。英語開講科目の受講、海外協定校への留学、海外留学生との積極的交流等により英語能力を向上させ、グローバルな舞台で活躍できる人材を戦略的に育成している。

TOPIC 4 『港北区魅力プラスカード』を用いた地域活性化ワークショップ



ワークショップの様子

横浜市港北区と連携し、2013年2月10日(日) 10:00～13:00に、KiDS (慶應イノベティブデザインスクール) の一環として、『港北区魅力プラスカード』を用いた地域活性化ワークショップを開催した。参加者は、地域の方から、学生、地域外の方まで多彩であった。グループごとに、ブレインストーミング、構造シフト発想法等を用いてカードの新たな使い方を提案してもらい、最後には、ハリウッド映画の Tree Act Structure を参考にスキットを製作・発表してもらった。参加者の皆さんには、港北区魅力プラスカードの先進性と、慶應SDMのワークショップを大いに楽しんでいただくことができた。

TOPIC 5 「新エネルギー活用&持続可能社会研究プログラム2013」第5回ワークショップ



パネルディスカッションの様子

2013年2月27日(水) 19:00～21:00、震災後の新エネルギーを検討するワークショップ第5回目を開催した。

これまで太陽光、地熱、風力など各分野の専門家に登壇いただき、社会システムや規制障壁など課題を洗い出しながら、大局的な視野を導く慶應SDMならではの議論をしてきたが、震災後の2年間で固定買い取り制度、それに関連するマーケットを取り巻く環境や理解も深まり、政府・企業とも新しいビジネススキームや技術を模索するようになってきた。

今回は海外の事情も踏まえて日本をより俯瞰的な視野で検証し、新たな課題を見いだすためのステップとすべく企画した。太陽光パネ

ルについては価格競争力において優位性が高い中国に対し、今年アジアでの新工場開設を控えた米国企業がある。その進出先であるマレーシア第二のハイテク工業団地セナイ・ハイテクパークのCEO ダート・アーマッド・シュクリ氏からマレーシアを含む東南アジアでのマーケット情報等をお話いただいた。

更に国際ビジネス、特に技術分野の企業を資金面でサポートする投資のエキスパート、サンインベストメント国際公認投資アナリスト庄司真史氏からは、世界的な新エネルギーへの投資と技術の課題についてお話いただき、理想的なエネルギーミックスへ向けての方向性を実務的に検討する有意義な機会となった。

お知らせ

受賞報告



2013年1月16日に西村秀和教授が「日本機械学会 フェロー」の称号を授与された。

受賞理由: 機械および機械システムとその関連分野において顕著な貢献をし、その功績が認められたため

ラボ・センター紹介

組織マネジメントラボ

(Laboratory of Organizational Management (MOBIL))

担当教員: 高野研一教授

<http://lab.sdm.keio.ac.jp/takano/>

1. はじめに

「安全・安心を実現する組織風土の醸成研究」

大規模複雑システムの安全・安心を実現するためには、従来のハード側の信頼性向上研究に加えて、施設のライフサイクル全般の運用にかかわる組織の文化・風土に係わる研究も同様に重要である。

当ラボでは、図に示すように企業組織の風土・文化の醸成研究を実施した(図参照)。目標は、①事故・コンプライアンスの問題が起きない、②活き活きとしたやりがいのある、③創造性と成長性に富んだ、組織およびそれを構成する職場と個人を創造することである。その研究領域は、「組織風土・文化の創造」「個人・チームの活性化」「リスクマネジメント」に大別される。

2. 研究成果概要

2.1 組織風土・文化の創造領域

この研究領域では、組織におけるモチベーション向上研究、安全文化診断、業績向上のための組織診断、組織活性化、組織文化の国際比較を実施してきた。現在、組織文化の診断方式については実用レベルに達し、技術移転を図るとともに、企業の要請に応じて診断業務を実施している。

2.2 個人・チームの活性化領域

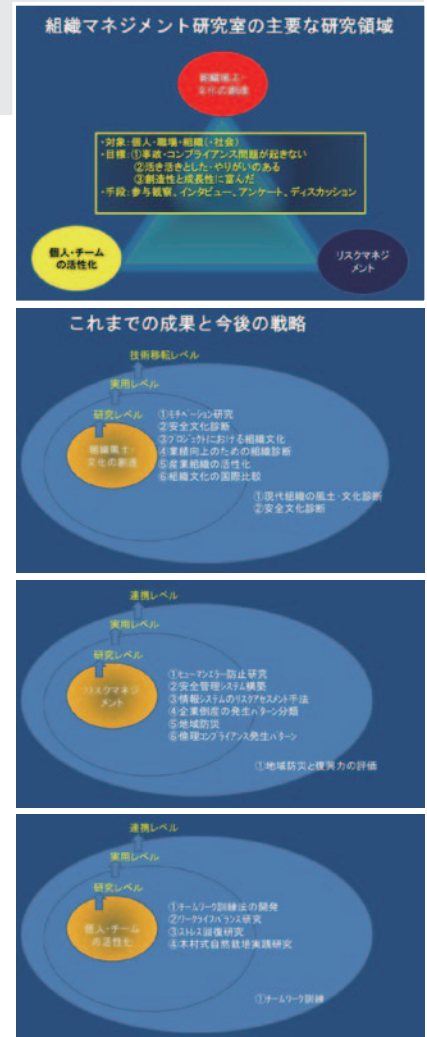
この研究領域では、チームワーク訓練法の開発実践、ワークライフバランス向上のための新たな提案、ストレス回復研究など、個人や職場のチームの再訓練を念頭に置き、どのような手段で活性化をすればよいかを提案した。具体的には実際の企業を対象に訓練を実施し、その効果を測定する方式により、実用レベルを達成しようとしている。

2.3 リスクマネジメント領域

この研究領域では、特に複雑大規模プラントにおいて事故を発生させないための実用的な管理手段を提供することを念頭に置いた。また、巨大化した情報システムのトラブルを減少させるためのリスクアセスメントやプロジェクト成功に導くプロジェクトマネジャーの能力や組織としての配慮などについても提案した。また、企業倒産やコンプライアンス事例の防止にかかわる研究も実施した。

3. おわりに

以上の通り、組織、職場(チーム)、個人を対象として、その活性化や創造性向上および文化・風土の醸成に関係する研究の基礎を構築するとともに、診断方式や訓練方式など実用化や技術移転レベルに達した技術も社会に提供した。



次世代コンテンツ利用研究ラボ

(Next Generation Contents Laboratory)

担当教員: 小木哲朗教授 当麻哲哉准教授、神武直彦准教授、狼嘉彰SDM研究所顧問、他

4K3D映像、VR(Virtual Reality)、AR(Augmented Reality)、スマートフォン等、最近の情報メディア技術は大きく変化しています。これらのメディアの進歩に従い、そこで表現されるコンテンツも、媒体であるメディアの特性を活かした制作方法、利用方法を行うことが必要です。次世代コンテンツ利用研究ラボでは、進歩し続けるさまざまなメディア技術をより効果的に利用するため、新しいコンテンツ制作技術の開発から、目的に応じたコンテンツの利用方法の提案まで、さまざまな視点から次世代コンテンツの利用に関する研究活動を行っています。このような目的から、研究活動のスタイルとしては、プロジェクトやイベントベースの活動になることが多く、プロジェクト毎にいろいろな企業と連携した研究活動を行っています。

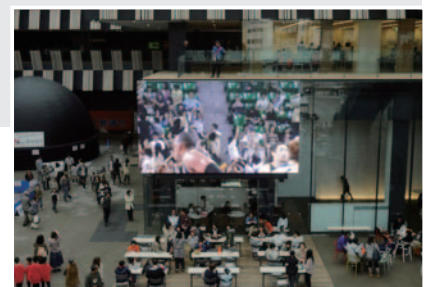
最近の主な研究活動は以下の通りです。

●スポーツと映像による地域活性化

スポーツは子供から大人まで、自分で身体を動かす運動から試合の観戦まで、多くの人々の生活と結びついたコンテンツです。このプロジェクトでは、プロバスケットボール、映像会社等と共同で、スポーツ映像の臨場感伝送等を用いて、スポーツによる地方都市の活性化を目指した活動を行っています。

●国際宇宙ステーションとの高臨場感コミュニケーション実験

昨年は星出彰彦宇宙飛行士が国際宇宙ステーション(ISS)に長期滞在を行いました。本プロジェクトでは、この間に慶應義塾大学と国際宇宙ステーションを映像通信ネットワークで接続し、リアルタイム2D/3D変換技術等を用い、宇宙とのテレマージョン(高臨場感コミュニケーション)実験を行いました。



アオーレ長岡で行ったイベントの様子



星出宇宙飛行士との臨場感コミュニケーションの様子



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management